

朝日旧友会報



挨拶する中江会長

左から久富道生選考委員長、大野、徳江両副会長、渡辺社長、小倉東京代表

朝日旧友会

東京都中央区築地五―三―二

朝日新聞東京本社内

〒104-8011

TEL 三三四五〇一三二

FAX 三三四三―三三三―八

平成二十八年年度総会日程

〔日時〕 新年総会 一月二十一日(木)
定時総会 五月十九日(木)

〔場所〕 朝日新聞記念会館(有楽町マリオン11階)

なごやかに定時総会開く

懐かしの仲間 元気に集う

東京・朝日旧友会の平成二十七年定時総会は、五月二十一日(木)午後四時から有楽町マリオンの朝日ホールで開かれた。当日はやや天候不順だったが、会場はそれを吹き飛ばすような熱気だった。当日ははやや天候不順だったが、会場はそれを吹き飛ばすような熱気だった。午後一時半からの映画「ふしぎな岬の物語」上映前には、この日を待ちわびていた会員が次々現れ、久しぶりに顔を合わせる懐かしい友達に「やあ、しばらく、変わらないか。よかった、よかった」と手をにぎったり抱き合う姿もみられた。

総会には中江利忠会長、徳江景英、大野功雄両副会長はじめ旧友会員二百九人、本社側から渡辺雅隆社長、小倉一彦東京代表や役員・幹部四十人が出席、会員と語り合い、大いに盛り上がった。

戦後七十年談話に注文・戦争責任は 中江会長

今度の教訓を新たな飛躍へ 渡辺社長

総会は森精一郎事務局長の司会で開会、中江会長が「過去を受け入れて共生へ」「戦後七十年談話に注文」と題して会員に訴え、戦後七十年の八月十五日を指して安倍首相が発表する談話が注目されているが、肝心の戦争責任について、米国の演説では「痛切な反省」「アジア諸国民に苦しみを与えた事実」程度にとどめた点を指

摘した。次いで森司会者がこの一年に亡くなられた会員六十三人のお名前を拝読、全員で黙祷を捧げた。その後森下会計幹事が平成二十六年年度の決算報告を行い、久富道生選考委員長から役員、幹事の選考経緯について説明があり、いずれも満場の拍手で承認された。

来賓として出席の渡辺社長は「信頼と回復と再生への歩みも軌道に乗り始めました。紙面を通じて共に考え、ともにつくるメディアとして目標が見えてきました。今回の教訓を新たな飛躍とします」と決意を語って会員の拍手を受けた。

引き続き親睦パーティー、樽酒が開けられ、会場全体が一気になごやかになった。それぞれお好みの飲み物を手に語らいつつ夜八時前まで続いたが、名残を惜しみ次の再会を約して帰路についた。皆々様お元気で、またお会いしましょう。

過去を受け入れて共生へ 「戦後七十年談話」に注文

私が最も尊敬し親しくもしていただいた、ある学者を偲ぶ会が今年二月末、東京・六本木の国際文化会館で開かれました。昨年十月に亡くなった日本の平和問題の泰斗、坂本義和教授です。

毎年の年賀状には必ず、自筆の書き込みがありました。「日本の自省の欠如をどう説明するか、根が深いように考えています」、「人間と社会がこわれて行くのを懸念しています」など、雑誌『世界』の昨年三月号に載った「『いのち』を生かす、たたかひの研究」は日本平和学会と明治学院大学国際平和研究所共催の講演に加筆したもので、これが事実上の絶筆にもなりました。

坂本義和教授の厳しい遺訓

この論文で坂本さんは、戦争とは普通「国家と国家の武力による戦い」といわれるが、実際には人と人が殺し合いをする生々しい体験である、との前提から説き起こします。

その上で坂本さんは、アジア・太平洋戦争に向き合う日本の為政者の姿を、次のように断じました。「国のためと思い込まされて殺し合いをさせられた死者を、

(アジア・太平洋への侵略戦争を仕掛けて) 国際的に戦争犯罪人と認定された指導者を含めて「尊崇する」と公言し、国家の名でヒトの殺し合いを命令・煽動した侵略を正当化して恥じない首脳の国であることは、疑いがない」

戦後七十年の八月十五日を指して安倍首相が発表する談話が注目されていますが、肝心の戦争責任については、先触れとなつた四月二十二日ジャカルタでのアジア・アフリカ(バンドン)会議では「先の大戦の深い反省」、二十九日米議会上下両院合同会議での演説でも「痛切な反省」「アジア諸国民に苦しみを与えた事実」程度の言葉にとどまりました。

批判の出発点は靖国参拝強行

「いかなる時でも(バンドン)会議の平和原則を」守り抜く「歴代総理と全く変わるものではない」との逃げ口上で、二十年前の村山首相談話に盛られた「植民地支配と侵略」に対する「心からのお詫び」などは省略されてしまいました。「慰安婦」にも直接には全く触れず、韓国中国などアジア各国からだけでなく、米議員の中からも厳しい批判の声が上がりました。

いずれにしても内外の厳しい批判の出発点は、安倍首相の一年暮れの靖国神社参拝にあります。A級戦犯を合祀した神社への参拝を強行しながら、直後の記者会見で「中国、韓国の人々の気持ちを傷つけるつもりは全くありません」と釈明しても、



中江旧友会会長あいさつ

稲爆撃などに見舞われた勤労動員の中学生としての戦争体験から、敗戦三カ月後の朝日紙面に載った「国民と共に立たん」という反省と謝罪の宣言が、その後のジャーナリストへの道を選ばせていた経緯を説明しました。そして、二十一世紀にかけてクロージングされる多くの課題の中でも、特に「多民族による多様な文化の共生で発展する『世界の中のアジア』に、日本としてはっきり軸足を置くこと」

坂本さんが厳しく論じたように、首相の行動は植民地支配や侵略を正当化したことと変わりはないからです。

批判の出発点は靖国参拝強行

ここで、二十年前の朝日新聞の一面に私が社長として書いた「ポスト戦後五〇年」の針路求めて」という論文を、あらためて披露するをお許し下さい。主見出しに「地球市民とともに歩む」と謳つたこの論文で私は米艦載機による低空飛行の機銃掃射やB29による焼夷弾の絨

五カ月後の昨年五月も、胡継平・中国現代国際関係研究院日本研究所長、韓昇洲・韓国元外相、天児恵・早稲田大教授らが参加して北京で開いた「日中韓の協調」直面する機会と挑戦」というシンポジウムで、「環境汚染や災害など地域で問題を共有する」「非伝統的な安全保障分野」で協力を進め、関係改善に繋げる」との意見をまとめました。

新たな日米安保体制の危険

安倍首相が米議会演説に先立ってオバマ大統領と合意した集団的自衛権の行使による日米防衛協力の新たなガイドラインと、これに即応して国会に提案された「国際平和支援法」などの新安保法制は、米国が「世界の警察官」の役割を一部日本に肩代わりするものと言えます。

新たな日米安保体制の危険

中国脅威論を背景に「積極的平和主義」や「一級国家へのカムバック」の名目でこれに飛び付いた日本の立場が、いかに大きな危険を孕んでいるかを、首相は認識しているとは思えません。反省と謝罪の上に初めて和解と共生が成り立つことを念頭に、アジアでの共生という原点に早く立ち戻って「戦後七十年談話」にもこれを反映させるよう強く望むものです。

メルケル独首相は、「ナチスやホロコーストの時代があった私たちが世界が国際社会に受け入れてくれたのは、ドイツが過去ときちんと向き合ったからです」と語りました。

「過去に目を閉ざす者は現在にも盲目になる」との演説を遺言にして一月に世を去つたワイツゼッカー元大統領は、「罪があるが無かるうが、若かるうが老いていようが、全国民が過去を受け入れなければならぬ」とも訴えました。

関わっていないから反省しなくてもいい、といった態度のまま靖国参拝を続ける日本の政権幹部は、これに何と答えるのでしょうか。

自民党政権があの手この手で憲法改正を強行しようとしている中、本社の最近の世論調査では、憲法改正の必要が「ない」の四八%に対し「ある」が四三%と拮抗して来ましたが、九条についてはやはり「変える方がよい」の二九%に対し「変えない方がよい」が六三%と、国民の平和へのこだわりが根強い姿が証明されました。

昨年来、反省と謝罪に明け暮れた朝日新聞としても、新たな責務と自信を取り戻して、戦後七十年の日本がその針路を誤らないように、世界の共生を目指して一層真摯な問題提起と提言を続けてゆきたいものです。

社長あいさつ



「新紙面は読者と共に」と渡辺社長

新年度とともに新しい紙面をスタートさせ、信頼回復と再生への歩みも軌道に乗り始めました。新紙面を通じて、「読者や社会とともに考え、ともにつく

を掲げましたので、それを具体的に紙面で伝えることを最大の目標にしました。目玉は、「言論の広場」の機能の強化です。

報道の原点で努力、信頼必ず取り戻す
思い強し、根底からの朝日改革

Sアナウンサーでエッセイストの小島慶子（こじま・けい）さんの三人を迎え、当社の中村史郎・前広告局長も含めた四人でスタートしました。編集部門から独立した立場で報道のあり方を検証し、ご意見をいただきます。お客様オフィスに寄せられる年二十六万二千七万件のご意見やご指摘、六万件に及ぶ「声」欄への投書、紙面モニターの方々からのご意見、ASAや広告部門を通じてご指摘などをパブリックエディターに集約し、紙面に反映していきます。新紙面ではさらに、朝日新聞

「危機こそ好機に改革」私は社長に就いた直後の昨年十二月、「朝日新聞社を根底からつくり変える」と申し上げました。五か月がたったいま、そ

める覚悟です。改革を加速するため、四月二十四日の取締役会で新体制を決めました。新しい役職を設け、担当部門なども一部変更しました。販売部門では昨年からASAの協力も得て進めている顧客データベースの構築を急ぎ、データベースの活用策を検討する「次世代顧客開発」の担当役員を新設しました。新しい市場をつくるためのプロジェクトも始動させます。まずは、元気な中高年層の「アクティブシニア」と、「女性」の二つをテーマにしたプロジェクトです。いずれも朝日新聞の主要な読者層ですが、現状ではまだ、必要な情報を十分に届けることができていません。どんな情報やサービスを提供できるのか、改めて社内のリソースを見渡し、新しい読者の開拓や新事業の開発につなげます。

で雨が降ったのはわずかに二度しかないようです。昨年夏以来のことがありましたので、参加者からは「小尻記者の涙雨か」という声が漏れました。追悼式の最後にあいさつの機会をいただいた私は、こう話しました。「朝日新聞社は、志をもった人に支えられている会社です。全国各地で開いている社員との対話集会で、それぞれの志を再確認する作業が続いています。志をもち、報道機関の原点に立ち返って努力し続けられ、信頼は必ず取り戻すことができ。事件当時より時代の空気は悪くなっているようにもみえるが、私たちが萎縮することなどありえない。小尻記者の遺志を受け継ぐ者として、再生をやり遂げる。小尻記者を泣かせることがないように、歯を食いしばってやってく。小尻記者と同

友会のみなごさまをはじめ社内外からご意見やご感想が届いていますが、最近では紙面改革に対する好意的なご意見や朝日新聞社への激励が増えていきます。信頼回復と再生のための対策はまだ緒に就いたばかりですが、今回の教訓を新たな飛躍につなげるために一層精進します。

最大の目標三つの理念

四月の紙面改革は、朝日新聞の変化を直接伝える重要な節目と位置づけました。一月に発表された「信頼回復と再生のための行動計画」で、三つの理念として、「公正な姿勢で事実に向き合う」「多様な言論を尊重する」「課題の解決策とともに探る」

を掲げましたので、それを具体的に紙面で伝えることを最大の目標にしました。目玉は、「言論の広場」の機能の強化です。

社の記事として約百年前に文芸欄を創設した夏目漱石にちなんで「文化・文芸欄」をつくり、週五回に拡充しました。朝日新聞の強みである文化分野を強化するためです。漱石の小説「それから」と、沢木耕太郎さんの朝刊小説「春に散る」も同じ面にしました。新聞の顔である一面には、新しいコラム「折々のことば」を連日載せています。かつての「折々のうた」のように、毎日楽しみにしてもらえらる連載やシリーズを各面に用意し、紙面の魅力を高めます。

読者の反応は上々です。「オ

の思いをさらに強くしています。確かに昨年夏以降の販売部数の減少は大きな痛手で、広告収入も低迷しました。しかし、いずれも昨年の問題によって初めて起きたことではありません。事態は以前から深刻化していました。いまの販売部数や広告収入の水準は、昨年の問題がなくても、事態を放置していれば三年後、あるいは五年後には見えた世界にすぎません。事業のありかたや収支構造の抜本的な見直しは急務です。私はこの危機を会社をつくり変える好機ととらえ、ためらうことなく改革を進

め、四月二十三日の取締役会で新体制を決めました。新しい役職を設け、担当部門なども一部変更しました。販売部門では昨年からASAの協力も得て進めている顧客データベースの構築を急ぎ、データベースの活用策を検討する「次世代顧客開発」の担当役員を新設しました。新しい市場をつくるためのプロジェクトも始動させます。まずは、元気な中高年層の「アクティブシニア」と、「女性」の二つをテーマにしたプロジェクトです。いずれも朝日新聞の主要な読者層ですが、現状ではまだ、必要な情報を十分に届けることができていません。どんな情報やサービスを提供できるのか、改めて社内のリソースを見渡し、新しい読者の開拓や新事業の開発につなげます。

小尻記者を泣かせない

私は五月三日、阪神支局襲撃事件で犠牲になった小尻知博記者の墓に参り、遺族の方々とお話をしました。阪神支局の追悼式にも参加し、事件が起きた午後八時十五分に黙祷をささげました。いつもと変わりのない五月三日でしたが、例年と違ったことが一つありました。広島県内の小尻記者の墓前に立ったとき、夜になって阪神支局の追悼式に出席したときに、いずれも雨が降ったのです。担当記者

による、事件後の二十八年間

平成27年 定時総会出席者

会員出席者

(か) 加藤 次一 粕谷 卓志 小野寺忠志 大原 広哉 大石 悠二 小田川 興 岡田 和巳 大倉 文雄 梅澤 正治 内山 眞 植木 栄 井上 日雄 伊藤 壯 石川喜代司 池田 正勝 伊波新之助 伊藤 裕造 石見谷 元 池辺 史生 飯野 幹雄 天野 重夫 朝野きらか 秋庭 武美 栗田伊三雄 安達 真樹 秋山 康男 荒木 忠直 荒山 康男 赤堀 昭雄 麻田 幸佑 荒井 利尚 浅井 泰範 阿部 征夫 池田 昌二 市川 健 伊藤 三郎 乾 雄成 井川 和男 石井 忠之 板垣 誠 稲永 金仁 宇野 勝己 上田 久行

(き) 金子 晃二 加納 安實 亀本 泰夫 川島 正英 川原 基高 川又 健一 片岡 久明 香月 浩之 加藤 光雄 内叶 均 金成 英雄 蒲田浩二郎 川島 正治 川瀬 智長 川辺 久信 木下 秀男 清時 竹彦 草鹿 恵 久保田 敏 窪田 喜三 窪田 康孝 黒川ハジメ 高口 信行 小勝 竹雄 小林 弘 後藤 襄 小林 清吉 小林 淑郎 小川 三夫 五味 秀雄 小山 千宏 近藤 行雄 近藤 巖 沢上 勇市 齊藤 幹雄 坂巻 武 佐々木博志 佐藤 清治 相良 保彦 坂井 清保 齋藤 善男 笹井 輝雄 佐藤 博 沢野 正明 柴田 琇一 志賀 浩 志村 和雄 島田 貴明 志村 和雄 柴田 眞樹 清水 勝 志村 勇 芝 實

(こ) 比留間悦雄 久富 道生 原 敏博 羽原 清雅 林 常蔵 嶋山 弘道 野村 彰男 根津 静男 二木柳典彦 西脇 正行 中村 雅俊 中嶋 康勝 名倉 正昌 中島 清成 中島 清成 中江 利忠 徳江 景英 寺田 達雄 鶴谷 守男 千綿 雅夫 田辺 功 詫摩 俊一 田中右太生 谷口富喜男 竹市 義弘 竹村 文雄 高橋 勝行 滝下 修 高久 陽男 竹内 實昭 善當 治昌 須田 徹 炭田 幸秀 鈴木 益民 須藤 典政 須田 徹 炭田 幸秀

(さ) 藤巻 新介 廣瀬 道貞 福田 喜大 福岡 照夫 別府 次郎 星野 富榮 洞口 和夫 宝明 美男 堀井 淳夫 堀越 作治 松井 茂 松本 秀男 松原 寛成 松永 健夫 松野 信彦 牧野 詔正 牧野 信彦 三浦 昭彦 三野 孝文 三浦 義晴 宮澤 恭人 三浦 千勝 宮田 善光 宮岡美佐男 村田 善光 村上 吉男 村野 悦吾 森 精一郎 村野 悦吾 森 正記 森田 恭生 森下 昇 諸 寿子 山村 行志 山内 幸夫 山本久二男 山越 英一 山本 祥之 山崎 悦孝 吉田 宏 吉田 成村 吉田 良吉 横田 稲光 吉田 弘文 渡邊 武人 若目田倫子 渡邊 和井田祐三 渡邊 恒雄 渡邊 登 中江 利忠 様 五千円 秋山耿太郎 様 五千円

▽ありがとうございます。

ご寄付

定年後の セカンドライフを サポートいたします！

☆年金プレミアム預金 (組合員のみ)
年金(国民年金、厚生年金、中退共、朝日新聞企業年金基金)の受取を信組口座に指定していただき、5ヶ月以内に年金受給開始になる方がご利用いただけます。預入金額は100万円以上1000万円まで。おひとり様1口限り。

☆シルバーライフローン (組合員のみ)
「しんくみ保証型」(限度額100万円)と「不動産担保型」(限度額500万円)の2種類です。申込の際は窓口へのご来店が必要です。また年齢制限や所定の審査がございます。

※上記商品の詳細については、店舗へお問い合わせいただくか、当組合のホームページをご覧ください。

役員・幹事新執行部決まる

中江会長 徳江・大野両副会長留任

新旧幹事拍手で承認 新任幹事は六人

定時総会の重要議題となつてゐる役員・幹事の選考経緯について、久富道生選考委員長から報告があり、満場の拍手で承認されました。

新役員は次の通り

▽会長 中江 利忠

▽副会長 徳江 景英
大野 功雄

▽事務局長 森 精一郎
副事務局長 牧野 詔正

▽幹事 沢上 勇市(新)
谷 久光(新)
高久 陽男(新)
戸引 和夫(新)
洞口 和夫(新)

業務 大坪 正徳
奥田 信久(新)
竹内 實昭
田中右太生

工務

坂井 清保
荒木 忠直
島山 弘道
名倉 正昌
吉川 宏(新)

出版

中島 泰
諸 寿子
若目田倫子

連合

奥川 恭子
藤巻 隆
山越 英一

ご苦労さまでした

村野 坦(編集)
別府 次郎(同)
故・水木 初彦(同)
横田 稲光(同)
森下 昇(業務)
本多 民明(工務)

選考委員の皆さまです

◇編集(六) 秋山 康男

天野 重夫

加納 安實

柴田 鉄治

平野 新介(新)

牧野 雄一郎

◇工務(五) 加藤 嘉照

込山 光雄(新)

柴 昭二(同)

田谷 宣夫

利根澤正弘

◇出版(三) 岡村 徹

君島 志郎(新)

初山 有恒(同)

◇業務(五) 小林 三千夫

都丸 司

中澤 信男

長谷川 晨

久富 道生

◇連合(三) 大野 出穂

下山 勝

古内 啓毅

ご苦労さまでした

黒田 正純(編集)
星野 富栄(工務)
栗原 姿哉(同)
宇野 博(出版)
広橋 敏栄(同)

平成26年度 決算報告書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(単位：円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	5,446,612		
終身会費 (19名)	740,000		
年度会費 (37名)	148,000		
総会会費(2回478名)	2,390,000	総会費	4,368,980
総会寄付金(本社ほか)	4,225,000	会報費(年3回発行)	2,001,667
会報収入	215,000	供花費	511,505
協力会社寄付金 (22社)	1,325,000	会務費	3,180,717
その他寄付金	20,000	通信・事務用品・雑費	335,041
雑収入	6,369		
		次年度繰越金	4,118,071
計	14,515,981	計	14,515,981

決算報告を承認

平成二十六年年度の決算を森下会計幹事が報告、満場の拍手で承認された。決算報告は次の通り。



加納安實さん、森田恭生さん



(左)香月浩之さん、中江利忠会長、中島清成さん



中江会長、久保田敏さん



渡辺社長を囲む元放送部の仲間たち



小山千宏さん、小勝竹雄さん



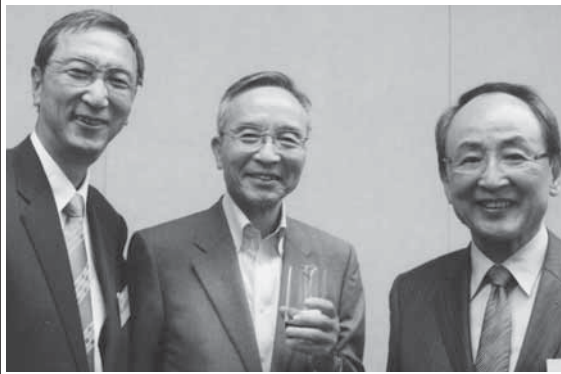
(左)須藤典政さん、赤堀昭雄さん、徳江副会長、三野孝文さん、千綿雅夫さん、詫摩俊一さん



(左)吉田弘文さん、田辺功さん、照山恵美子さん



(左)牧野信彦さん、大倉文雄さん、窪田康孝さん



(左)秋山耿太郎さん、野村彰男さん、村上吉男さん



(左)伊藤壯さん、中江会長、岩崎直子監査役



(左)鈴木益民さん、渡邊武人さん、藤巻隆さん、高口信行さん



(左)寺田達雄さん、善當治昌さん、柴田眞樹さん



熱っぽく語り合う会員仲間



(左)平野新介さん、川島正英さん、堀井淳夫さん



加藤嘉照さん、松永健夫さん



(左)安藤保雄さん、佐々木博志さん、金成英雄さん



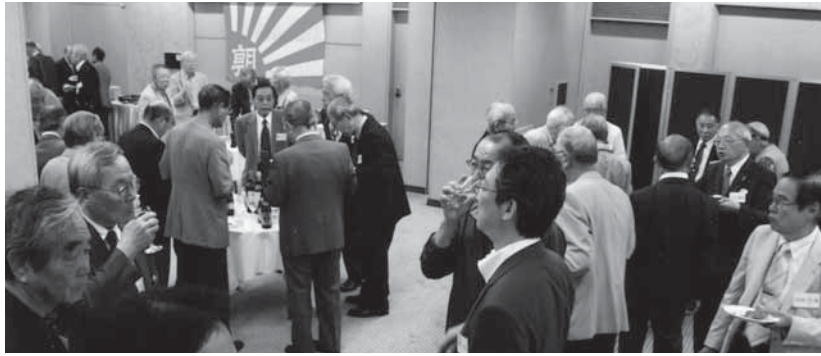
秋庭武美さん、片山朝雄さん



伊藤裕造さん、前原寛成さん



(左)志賀浩さん、後藤大阪代表、岡田和巳さん



会話のはずむ会場



山崎悦孝さん、村野坦さん



板垣誠さん、平賀義男さん



元気に集合の元総務局の人たち



(左)三宅勝喜さん、清時竹彦さん、加納安實さん



(左)井川和男さん、大島昭義さん、高橋勝行さん



皆さま元気です。よろしく



蛭川真夫さん、滝下修さん



中江会長、黒川ハジメさん



窪田喜三さん、伊波新之助さん



都丸司さん、志村嘉一郎さん



内山眞さん、伊藤三郎さん



竹田純さん、秋山康男さん



受付を守る幹事団



(左)川島正治さん、池田正勝さん、坂巻武さん、比留間悦雄さん、山内幸夫さん